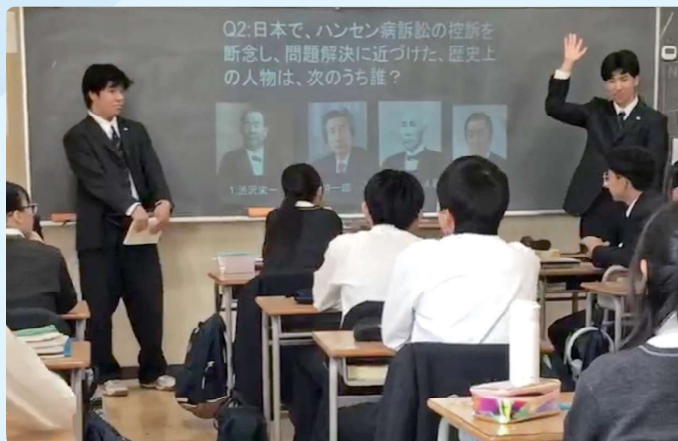


ハンセン病問題を知る

～希望ある未来の為に～

語り手 Mさん

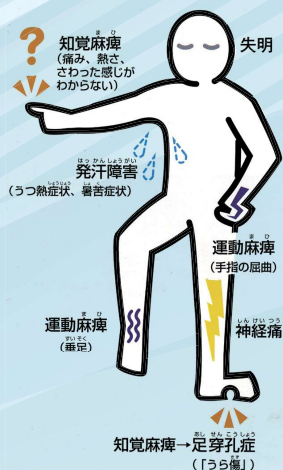
聞き手 熊谷 晃貴、佐藤 風紗、高橋 嶺、中村 亨也
学校法人開智学園



ハンセン病について

ハンセン病とは「らい菌」と言う細菌によって引き起こされる感染症です。通常、感染力がとても弱く、発症する可能性が非常に低い病気です。主な症状には、体の崩壊(手指の変形、顔の歪み)や触覚の麻痺があり、治療せずに病気が進行すると、物をつまんだり歩いたりするといった日常生活に支障をきたします。しかし、現代においては、**早期発見や適切な治療を行うことで、完治する病気**となりました。また、世界では現在でも年間約14万人が発症しており、治療を行い続けています。

▼画像提供：国立ハンセン病資料館



ハンセン病問題について

日本では、現在もハンセン病患者・回復者に対する差別が続いています。これは、国が『**癩予防法**』という法律を成立したことが始まりです。この法律は、ハンセン病患者を療養所に強制隔離させるもので、**入所規定はあっても退所規定がなく、一生収容所に閉じ込められていました**。これは国のハンセン病に対する知識不足によるもので、1996年まで廃止されませんでした。この**基本的人権を侵害し続けた100年余りの出来事**が、日本のハンセン病問題です。



ハンセン病療養所 全国マップ

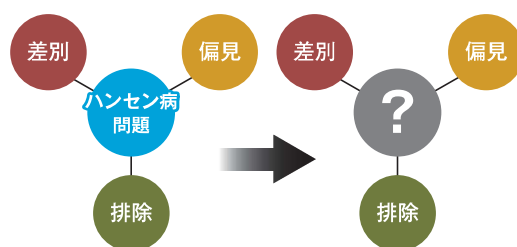
国立療養所 13施設
私立療養所 1施設*



皆さんはハンセン病問題は解決したとお考えでしょうか。「らい予防法が公布されたのは約50年前の1952年のことなので、少し昔のことだから私たちには無関係だ」と思われるかもしれませんが。しかしハンセン病患者家族による熊本地裁での訴訟は 2001 年のことで、かなり最近のことなのです。

私たちが大切だと思うことは**ハンセン病問題を知ること**で、**現代社会を見直す**ということです。右図はハンセン病問題が問題視されている点を可視化した図です。ぜひこの図をみることでハンセン病問題と似た問題がないかどうか考えてみてください。

ハンセン病問題と似た問題は？



ハンセン病問題を学んで



私たちは当初ハンセン病については聞いたことがあっても詳しくは知りませんでした。学ぶ前は、発症するとみんなから敬遠される病気という程度のイメージしか持っていませんでした。そこからハンセン病やハンセン病問題について少しずつ学び、気付いたことはハンセン病問題の被害者は**回復者だけではなく、関係者も被害者であったこと**です。そこで起きた差別や苦悩は過去の出来事で終わらず、現代の方たちにも知って理解していただかなければいけないと強く感じています。私たちにできることは**学んだことを現代の方たちに伝えること**です。ハンセン病問題について伝える活動を継続したいと考えています。

私たちにできる啓発活動

授業で伝える

社会が抱える差別や分断について、参加者と一緒に考える特別授業。

私たち開智中学・高等学校の4名は、現在ハンセン病問題の啓発活動を行っています。次世代を担う者同士がハンセン病問題を一緒に考えることにはきっと大きな意味があるだろうと思い、行動をしました。



- 👉 ハンセン病のことを学んだ時に「怖い」という感想で終わらせないこと。
- 👉 ハンセン病に関する歴史上人物をクイズで紹介。
- 👉 ハンセン病をイメージした「もののけ姫」をクイズで紹介。
- 👉 同じ学校の中学2年生や近隣小学校に通う小学5・6年生の児童向けに授業。

参加者からは「説明が分かりやすかった」「ハンセン病問題による差別の重大さがよく分かった」「普段とは違う視点から考えることができた」と好評をいただいています。もちろん「もっとハンセン病問題について詳しく話してほしい」といったご意見もいただきます。私たちはこれからもハンセン病問題について学び、より多くの人にハンセン病問題について考えてもらうために啓発活動を行っていくつもりです。**行動が1番のメッセージになると**信じて、活動を続けていこうと思っています。

